

## 第2章 総社市の特性と課題

### 1) 総社市の概況

#### (1) 位置・地勢

本市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市に、南部は倉敷市に、北部は高梁市及び吉備中央町に、西部は井原市及び矢掛町に接しています。

総面積は212.00km<sup>2</sup>で、市域の中央を北から南に岡山県の三大河川の一つ高梁川が貫流し、南部地域は扇状地勢の沖積平野である吉備平野が東西に広がっています。その吉備平野には、市街地が帯状に連なって形成されるとともに、市街地周辺には古くからの集落が広がるなど閑静で緑豊かな田園地帯を形成しています。

中北部は、高梁川両岸に集落が形成されているほか、吉備高原の一部を形成する森林地帯となっており、標高200～400mの山が連なり集落が点在しています。また、倉敷市と隣接する南東部には福山山系が東西に産し、南に高く北になだらかな丘陵地帯となっています。

#### (2) 気候

年平均気温16.5℃前後、雨量は年間1,000mm前後で、瀬戸内海特有の温暖、少雨で晴天に恵まれた気候です。

#### (3) 沿革

本市は、かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域であり、石器が出土するなど縄文時代以前から人々が生活していた痕跡が見られます。また、古墳時代には吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されています。

飛鳥・奈良時代には、備中の国府も置かれ、国分寺、国分尼寺も配置され、備中の国の政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代には備中国内の神々を合祀した総社宮が建てられました。総社市の名称はこれに由来しています。

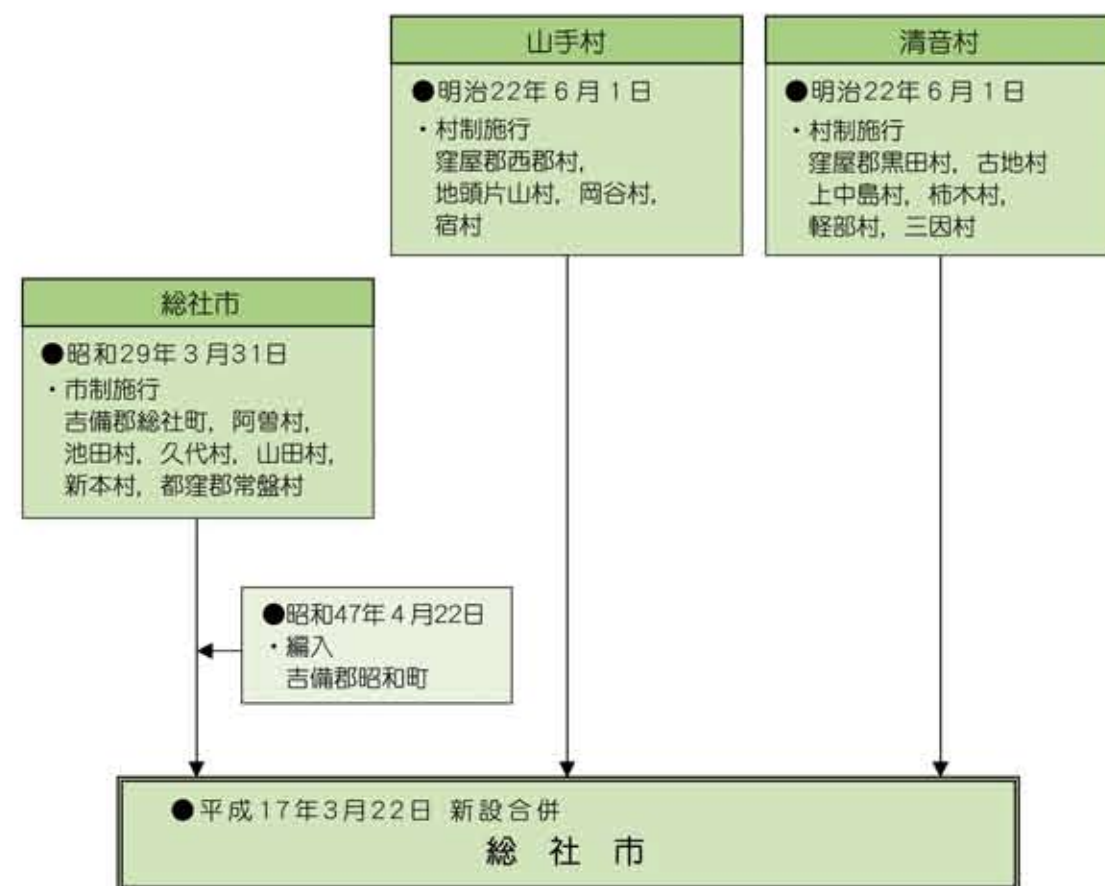
鎌倉時代以降は、備中国の中心から、山陽道や高梁川の水運を生かした門前町や宿場町としての役割を担うとともに、豊かな農村地域としても発展しました。江戸時代には、岡山藩や足守藩など複数の藩領による複雑な統治形態となっていました。

本市の前身となる3市村のうち、総社市は、明治期、昭和期の町村の合併を経て昭和29年に市となり、その後昭和47年に当時の吉備郡昭和町を編入しています。また、山手村と清音村はそれぞれ明治22年に誕生しています。そして平成17年3月22日に、3市村の新設合併により新しい総社市が誕生しました。

高度成長期の昭和40年代頃からは、県南工業地帯の発展に伴い、宅地開発が進むとともに、その後背地として内陸工業も発展しています。特に、自動車関連、食品関連等の優良企業の立地が本市の発展に寄与してきました。近年では、歴史に培われた吉備文化と、高梁川の恵みをはじめとする豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市としての発展もみせています。

#### (4) 合併の経緯

##### ■旧3市村と総社市誕生の経緯



#### (5) 人口・世帯数

本市の人口は、近年わずかに鈍化しているものの増加傾向にあり、国勢調査によると、昭和55年から平成12年の20年間で56,865人から66,201人となり（3市村分）、9,336人、約16.4%増加しています。これは、岡山県全体の4.3%と比べると大変高い数値であり、本市がめざましい発展を続けてきたことを示しています。また、平成17年の国勢調査でも、平成12年と比して、383人増加の66,584人を示しており、現在も人口は増加しています。

本市の世帯数は、一貫して増加傾向にあり、国勢調査によると、昭和55年から平成12年の20年間で15,587世帯から21,674世帯となり（3市村分）、約39.1%増加しています。また、平成17年の国勢調査では、平成12年と比して、1,066世帯増加の22,740世帯を示しています。

年齢別人口では、少子・高齢化が進みつつありますが、その進行度合いはそれほど急激ではありません。平成12年の国勢調査では岡山県全体の年少人口（0～14歳）比率14.9%、老年人口（65歳以上）比率20.2%に比して、本市は年少人口比率15.6%、老年人口比率18.7%となっています。

産業大分類別人口は、平成12年の国勢調査によると、第1次産業比率6.8%、第2次産業比率37.3%、第3次産業比率55.8%となっています。岡山県全体と比較すると、第1次産業（6.5%）は同程度で、第2次産業（32.4%）はやや高く、第3次産業（60.4%）はやや低くなっています。これは、市内の製造業や倉敷市水島地区への勤労者が多く、比較してサービス業等の従事者が少なくなっていることが考えられます。

#### (6) 交通条件

本市は、市の南部及び隣接する岡山市、倉敷市に、山陽自動車道、国道2号、山陽新幹線、JR山陽本線などの日本の国土軸を形成する主要な交通網が東西に通っています。それに加えて、国道486号、JR吉備線、井原鉄道などが東西に走り地域交通の幹線となっています。また、中四国を南北に結ぶ地域連携軸の一端を担う、岡山自動車道、国道180号、JR伯備線などを有し、岡山空港にも近いことから、中四国の広域交通の結節点ともいえる位置をしめており、広域交通拠点としての発展性の高い地域です。

### 2) 総社市の現状特性

今後のまちづくりにあたって必要なことの一つに、地域の個性を生かしたまちづくりを進めていくことがあります。本市が持つさまざまな「地域資源」を整理し、本市の現状特性を分析します。

#### ●都市と自然が共生しているまち

本市は、吉備高原の丘陵地帯、高梁川の豊かな流れ、吉備平野に広がる田園風景などの水とみどりに恵まれ、吉備路風土記の丘、吉備史跡の両県立自然公園に指定されており、トキソウやサギソウ、ハッチョウトンボ、スイゲンゼニタナゴなどの貴重な動植物が生息する豊かな自然環境が今も残されています。そして、これらの自然環境に囲まれて市街地が形成されており、都市と自然が共生するすばらしい環境を有しているまちといえます。

豊かさやゆとりが求められる今日、市民の多くがゆとりを持って暮らせる都市と自然が共生するまちとして、市民の多くは、今後も本市での定住を希望しています。今後も、総社市固有の自然環境の保全に努めるとともに、豊かな自然環境のなかで安全で楽しい都市生活が享受できるまちづくり、うるおいのあるまちづくりを進めていく必要があります。

#### ●古代吉備文化の薫る歴史と観光のまち

本市は、備中国分寺、作山古墳、鬼ノ城や温羅伝説などに代表される古代吉備文化の栄えたまちであり、穏やかで恵まれた自然風土の中、その栄華を偲ぶるわが国固有の古墳や貴重な史跡、そして数々の伝説や逸話などが伝えられている歴史の薫るまちです。また、画聖雪舟ゆかりの井山宝福寺や福山城跡などの幅広い時代の文化財も残されており、これらの歴史と伝統、文化が市民の誇りや本市のアイデンティティにつながっています。

本市は、こうした歴史資源を生かした観光のまちであり、国民宿舎サンロード吉備路や吉備路もてなしの館などの観光施設も整備されており、国内外から多くの観光客が本市を訪れています。

今後も、貴重な歴史資源を後世に伝えることはもとより、古代吉備文化の再評価も試みながら、国内外に古代吉備文化の歴史と伝統を発信するなど、歴史ロマンを生かした創造的で夢のあるまちづくりを進める必要があります。また、これらの文化財などを観光資源として生かしていくまちづくりも、あわせて進める必要があります。

#### ●広域交通体系の整備が進んだまち

本市の周辺には、高速道路として岡山自動車道、山陽自動車道、瀬戸中央自動車道、主要な国道として国道2号、180号、429号、486号が整備され、本市には岡山総社インターチェンジが配置されています。また、山陽新幹線やJR山陽本線・伯備線や井原鉄道などの鉄道網、3,000m滑走路を有する国際線にも対応した岡山空港が整備されており、恵まれた広域交通の体系が構築されています。

これらの広域交通体系の形成により、本市は、日本海・瀬戸内海・太平洋と東海道・山陽を結ぶ要衝に位置し、中四国の広域交通や物流の結節点としての役割を担っています。

今後は、国内各地とさまざまな分野における連携と交流が期待されるとともに、市勢の継続的な発展と将来の飛躍に備えるためにも、広域交通体系の優位性を生かしたまちづくりを進める必要があります。

#### ●県南部における交流拠点機能を持つまち

本市は、県都岡山市及び倉敷市と隣接し、その周辺市町で構成される県南広域市町村圏の一つの拠点として、住宅や産業等の受け入れ機能、高等教育の場の提供、吉備路を中心とする歴史と豊かな自然環境を有する文化・レクリエーション拠点として多様な役割を担っており、今日、県南部の交流拠点機能を持つまちとして、着実な成長を上げてきました。

今後は、岡山市・倉敷市との連携と交流を深め、それぞれの役割分担を広域的視点で明確化するとともに、総社市の中心性を高めるまちづくりを進め、若者世代や団塊の世代などの定住を促す、地域の個性を生かした魅力ある都市の形成に努める必要があります。

#### ●文化・スポーツ活動、地域コミュニティ活動が活発なまち

本市は、総社市文化振興財団や総社市文化協会等の育成、市民皆スポーツの振興や総合型地域スポーツクラブの育成、地域コミュニティ組織の育成などにより、子どもからお年寄りまで市民が主役となった、さまざまな自主的な文化・スポーツ活動や地域活動、健康づくり活動、まちおこし活動が活発に展開されているまちです。

近年、高齢化の進行に伴い、お年寄りを始め市民一人ひとりが生きがいを持って、いきいきと暮らせるように、生涯学習・生涯スポーツの充実、市民が自ら行う芸術・文化・スポーツ活動に対する支援が求められています。また、地域コミュニティ活動の希薄化や地域求心力の低下、少子・高齢化の進行に伴い、地域の安全性の確保や高齢者の生活環境の充実なども求められており、地域コミュニティを核としたまちづくりが求められています。

今後は、市民主役の文化・スポーツ活動に対する支援や地域コミュニティ組織の育成を行うとともに、市民と地域、行政が協働でまちづくりや地域づくりを進めていくことが必要です。

#### ●岡山県立大学と連携した学園都市として発展が期待されるまち

本市には情報工学部、デザイン学部、保健福祉学部等の学部で構成された岡山県立大学が、平成5年に開学し、産学官連携による福祉、環境、産業、情報などの分野での共同研究が進められており、本市は、その岡山県立大学と連携した学園都市としての発展が期待されるまちです。また、全学あわせて約1,500名の学生たちが、まちに活気をもたらしています。

今後は、大学関係者や学生と行政、民間企業、各種の団体など市民のさまざまなレベルでの交流活動・連携活動を深め、学園都市としての優位性を生かしたまちづくりが求められるとともに、その基盤となる岡山県立大学周辺の環境整備を進めていくことが必要です。

また、卒業後の人材を、地域で受け入れていく就業環境の整備や、市外からやって来た学生たちに、総社を第二の故郷として愛してもらえるような心温かなまちづくりを進めることも重要です。